

IRレポート

第2号

アンケート概要

現代の高等教育はその質保証が求められ、単位認定や成績評価以前の授業の質改善も求められています。例えば、アクティブラーニング、ICT活用、実務家教員、ティーチング(スチューデント)アシスタントといった用語は教育の質保証を象徴する言葉で、学生同士や学生と教員の間での対話的な活動、情報技術を使った柔軟な情報提供と情報共有、現場や生活場面に活かせる授業内容の提供、必要に応じた上級生による教育補助・助言が学生の学修に功を奏するものと期待されているわけです。そこで九州ルーテル学院大学(以下、本学)では、毎年FD・SD委員会が学生に向けて実施している授業評価アンケートのデータから、特に2019～2021年度のデータを取り出して、3年間にわたる学生の授業評価の特徴や変化を検討しました。また、新型コロナウイルス感染拡大により2020年度前期から急遽オンラインに切り替えて授業が実施されましたが、当時のオンライン授業に対する学生の評価も掲載しましたので、ぜひご確認いただければ幸いです。

また、ここに報告します授業評価アンケートの経年比較結果は、2022年9月8日の学長室会でも提出されて、本学の授業の在り方について検証と検討が行われました。その検討内容も記していますので、ご参照ください。

《アンケート対象者》

2019年度から2021年度に本学に在籍していた全学生です。

《実施時期》

授業評価アンケートは毎年前期7月と後期1月に実施しています。各授業に対して登録・出席している学生がその授業を評価します。

《調査方法》

各科目に共通のwebアンケートを作成し、科目担当教員全員が学生にwebアンケート回答を要請しています。年度によってはそれまでであった質問項目が廃止されてデータそのものがなく、連続的な経年比較ができないことをご了解ください。

《分析方法》

回答データから、年度(前期・後期)、学年、学科・専攻・コースごとの平均値を算出し、グラフ化しました。

授業に対する学生評価

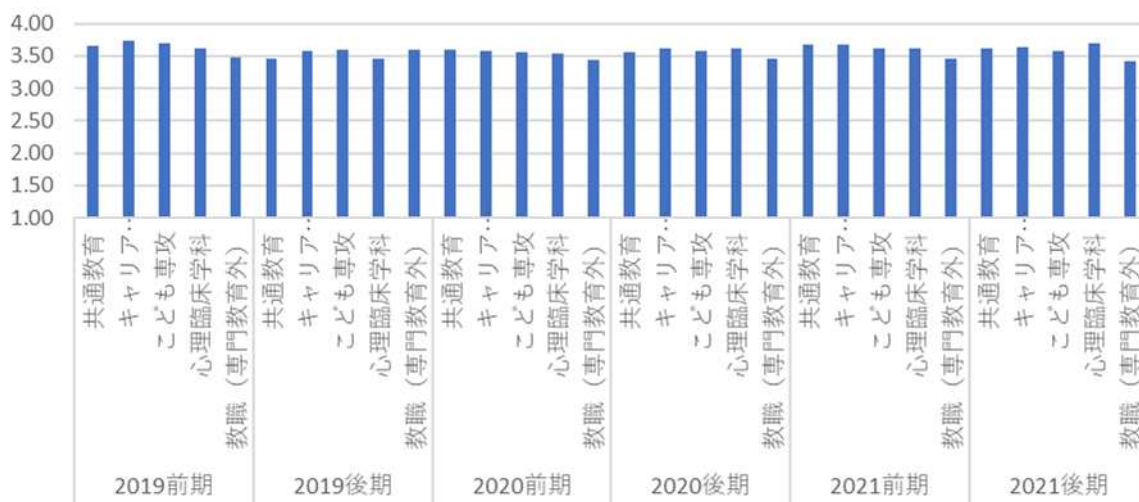
①授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた



②事前学修・事後学修について十分に説明してくれた

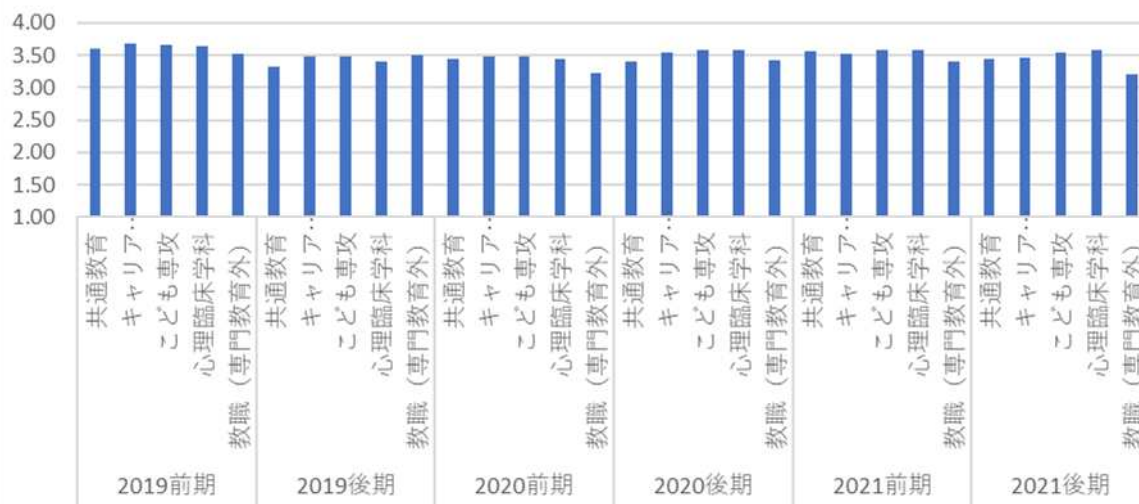


③授業は「講義概要（シラバス）」に沿って実施していた

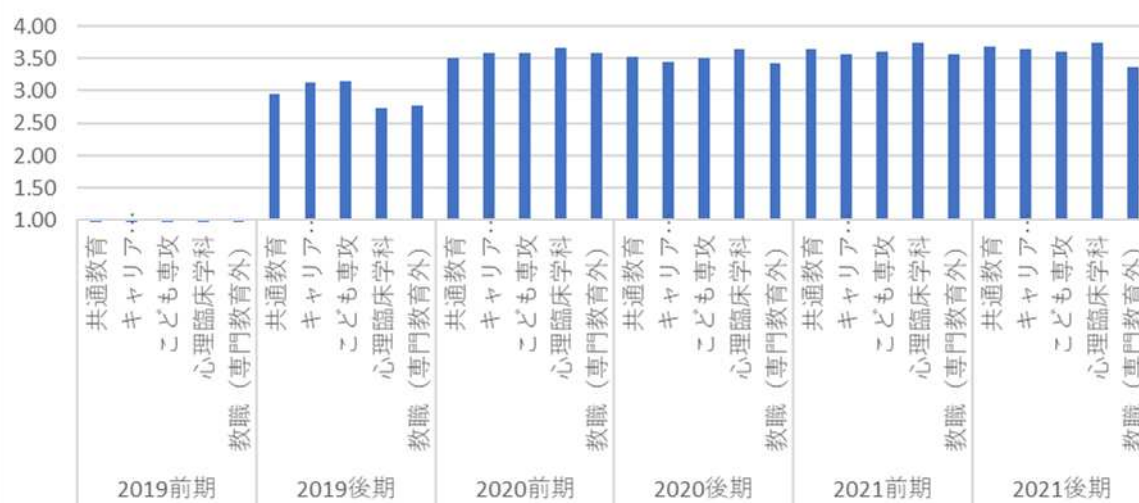


※回答段階
 1. まったくあてはまらない(なかった)
 2. あまりあてはまらない(あまりなかった)
 3. ある程度あてはまる(ある程度あった)
 4. とてもあてはまる(よくあった)

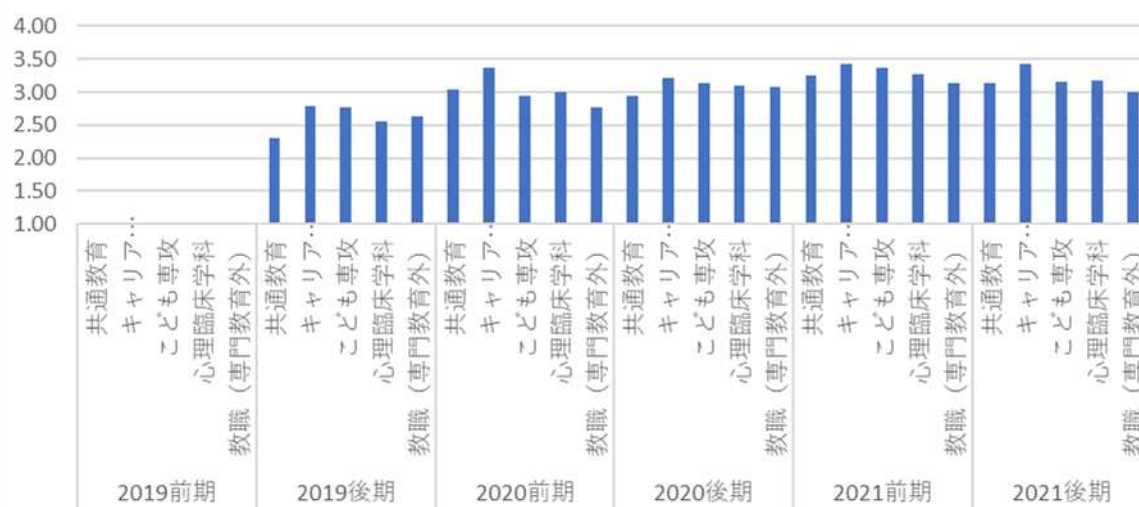
④理解がしやすいように教え方が工夫されていた



⑤小テストやレポートなどの課題が出された



⑥適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却された

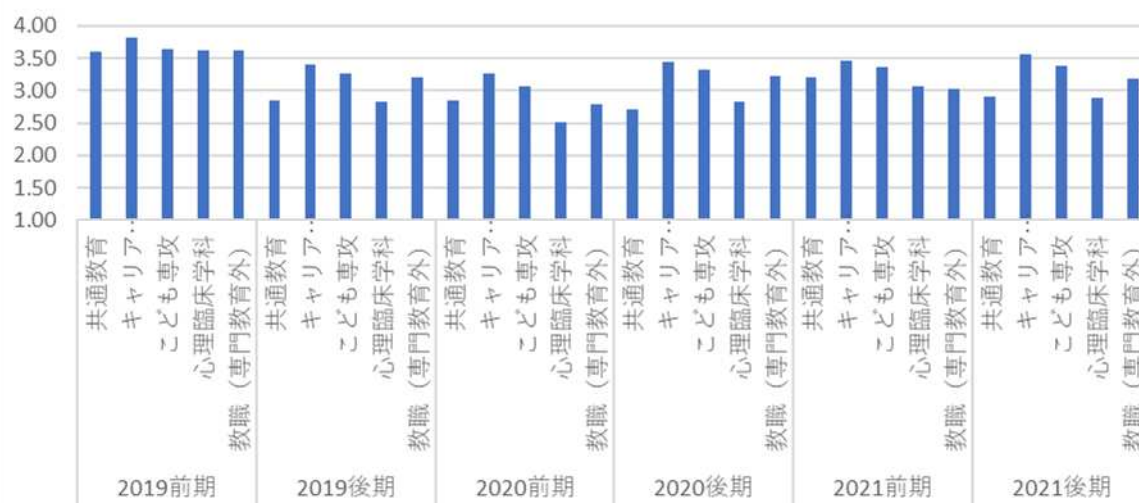


- ※回答段階
1. まったくあてはまらない(なかった)
 2. あまりあてはまらない(あまりなかった)
 3. ある程度あてはまる(ある程度あった)
 4. とてもあてはまる(よくあった)

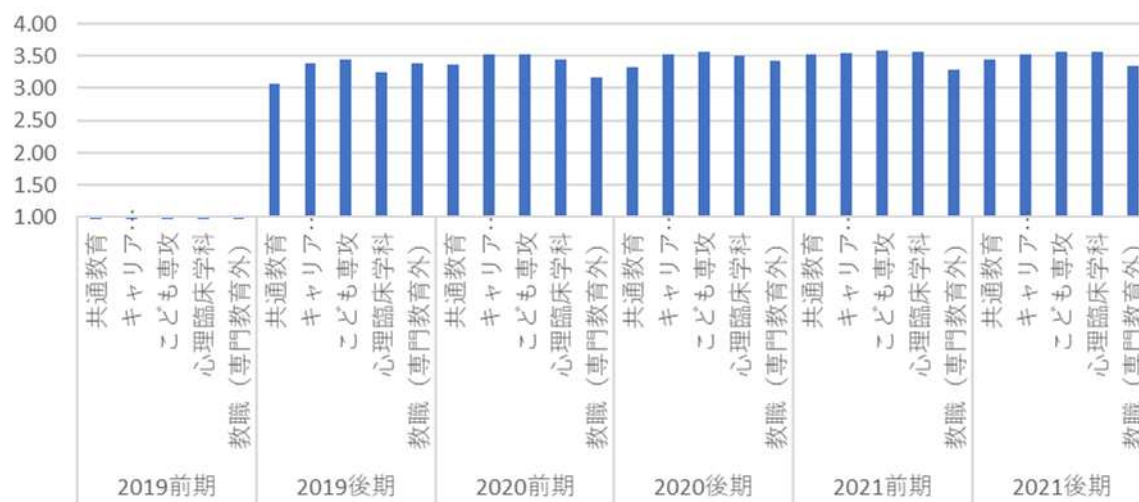
⑦グループワークやディスカッションの機会があった



⑧教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった

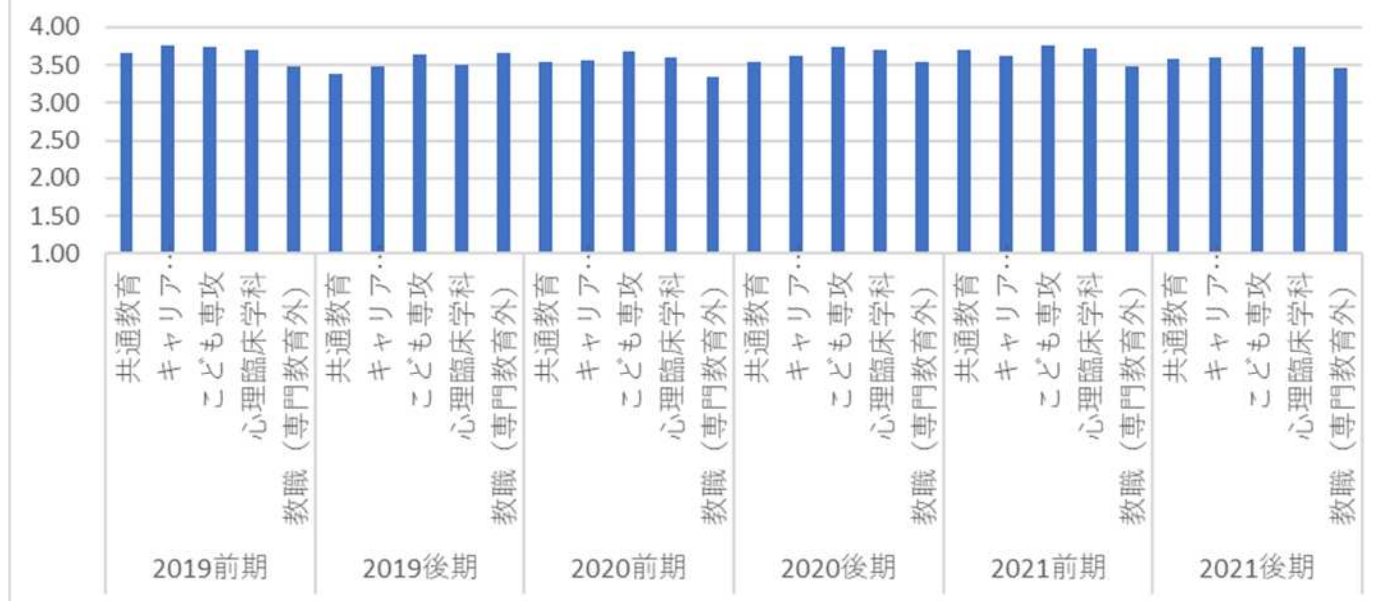


⑨事前学修・事後学修の課題は授業に役立つものでしたか



- ※回答段階
1. まったくあてはまらない(なかった)
 2. あまりあてはまらない(あまりなかった)
 3. ある程度あてはまる(ある程度あった)
 4. とてもあてはまる(よくあった)

⑩全体として、この授業はあなた自身に役立つものでしたか



- ※回答段階
1. まったくあてはまらない(なかった)
 2. あまりあてはまらない(あまりなかった)
 3. ある程度あてはまる(ある程度あった)
 4. とてもあてはまる(よくあった)

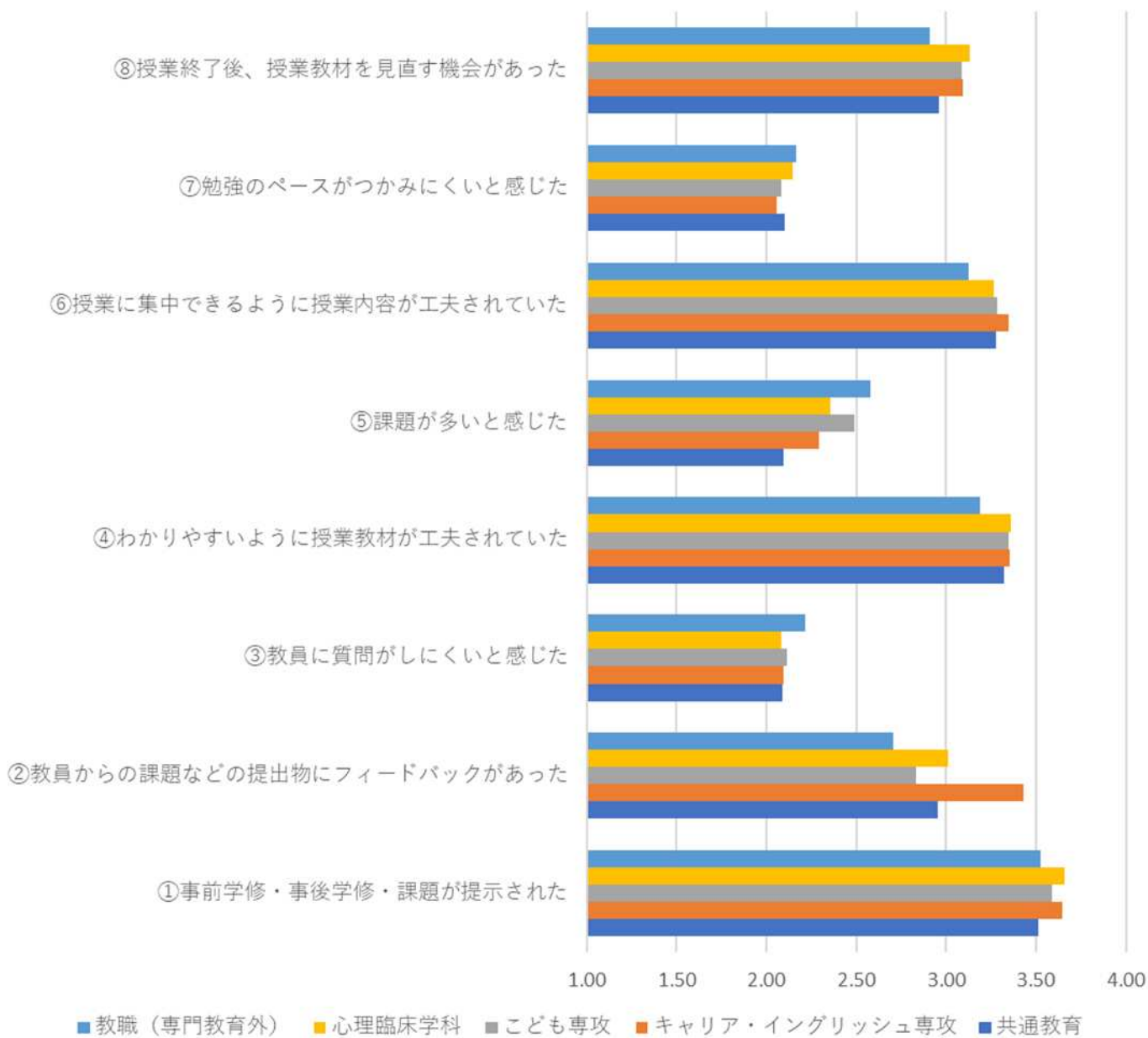
学長室会では、以上の結果に基づいて、特に 2020 年度から課題提出が増えているが、その割に提出後のフィードバックが少ないことを報告しました。これについて、課題提出に対して小まめにフィードバックすることも学生の学修にとって大切なことではあるが、教員の負担増大を考えると、フィードバックしやすいように課題を設計したり上手に Moodle を活用したりするとよいのではないかという意見がありました。フィードバックしやすい課題設計や Moodle 活用方法について具体的な話にまで至りませんでした。フィードバック方法と教育効果に関して教職員が詳しく検討して学修できる機会を今後つくとよいかもしれません。

また、学長室会では、共通教育や心理臨床学科の科目ではどの年度でもグループワーク・ディスカッションや質疑応答の機会が少ないことを報告しました。これについては、まず⑦の質問意図を明確にし、グループワークやディスカッション(あるいはアクティブ・ラーニング)の捉え方の幅には学生によって大きく異なるため、その意味を学生に明確に示して項目文章を改善するとよいのではないかという意見が出ました。また、共通教育でなぜ、機会が少ないという回答が多かったのかについて、共通教育では非常勤教員が多く学生との関係性が十分に築かれていないために質問ができないこと、履修者数が多い講義形式の科目授業であることが関係しているのではないかという意見が出ました。次に、心理臨床学科でディスカッションや質疑応答の機会が少ないという回答が多いのかについては、授業が座学傾向であるとともに、心理臨床学科特有の学生の特性も関係しているのではないかと意見が出ました。

以上の議論のもと、学長室会では、各学科専攻コースで上記の分析結果を共有してさらに議論・検証し、カリキュラム・科目設計・授業方法の見直すべきところを見つけて改善していくことが確認されました。

(付録) 2020 年度前期オンライン授業に対する学生評価

2020年度前期オンライン授業評価



※回答段階 1. まったくあてはまらない
 2. あまりあてはまらない
 3. ある程度あてはまる
 4. とてもあてはまる

発行

〒860-8520熊本市中央区黒髪3-12-16

九州ルーテル学院大学

IR・情報委員会／総務課 IR 情報室

2022年9月30日